

きぼう

2015年3月1日

藤野「福まち」広報誌

第19号

●発行／藤野地区社会福祉協議会

●企画／藤野地区福祉のまち推進センター広報啓発班



北海道新聞“どうしん川柳”の常連、齋藤政市さん(藤野高台町内会)

『川柳は、世界一短い定型詩』といわれます。昭和5年1月生まれ、85歳のご高齢にもかかわらず、その川柳吟では知る人ぞ知る、有名人です。北海道新聞文化欄での、投句の多さと作句力が称賛される、日々の努力や秘訣アレコレについて、お話しいただきました。

★ ★

生まれは札幌市(当時は藻岩郡藻岩村)。学校卒業後郵政省(同逓信省)に勤務、北海道内を8カ所転勤して、昭和53年藤野に住まいました。

川柳には若いころから興味を持っていたのだけれども現役中は、忙しくて暇がなかった。定年になってから、ポケ防止になるのでは、と始めたのです。初めて道新に載ったのは、平成8年3月です。「土下座してみても済まないことをやり」で、大手商社の不正行為を詠んだもの。忘れられない一句です。

投句は1日一通3句です。「継続は力なり」を

世の進化戦とテロを積み残し
 札幌・大道 光雄
 中東の売名行為恐ろしい
 北広島・林行雄(91歳)
 黒装束世界公開恐怖劇
 石狩・田中 稔
 インフレを目指す政治に泣く庶民
 幕別・保格 博夫
 道産子に雪は恋人雪は友
 札幌・斎藤政市(85歳)

道産子に雪は恋人雪は友
 札幌・斎藤政市(85歳)

どうしん川柳 三浦一選
 老猫と背丸丸めて春を待つ
 北斗・本村 桂子
 嫌なヒト見れば相手もそんな顔
 札幌・八木 柳菖
 スキー終え疲れてバスで寝てしまふ
 留萌・星野翼(港南中)
 傷ついたころに月に月がしみわたる
 名寄・坪田 悦子
 選者 吟
 報復の連鎖が連なる魂地獄

◀奥様と
 北海道新聞▲
 平成27年2月
 12日に掲載さ
 れた齋藤さん
 の川柳

モットーにして休まず毎日送るので、始めて間もなく最多賞に入り平成26年12月現在も上期・下期計算で36期連続ベスト10入りを継続中です。

これまでの総数は数えたこともないが、優に数千句となるだろうし、通算入選数は600句を超えました。道新のほかにも北海道川柳協会同人やNHKもあるので、普段は新聞、テレビからの情報入手はもちろん、老人会仲間との交流も怠れません。

これからの目標は、私より年長の投句者もたくさんいるし、100歳を超えても続けたいですね。

創作に集中すると、湧き上がってくるような時もあるけれど、これまでに、満足という句はまだないね。だから、勉強してガンバります。

ほかに囲碁(5段)、将棋、麻雀、カラオケ、輪投げ、パークゴルフやら趣味も多いけれど、社会・時事問題・諷刺等に脳運動をする川柳は大切にすつもりですよ。
 (取材 岩崎)

ふじの子育てサロンフェスタ

藤野地区にある9つの子育てサロンが大集合!

平成 26 年 12 月 6 日(土) 藤野地区センター・アリーナ



藤野の福まちと各子育てサロンが中心となり、「ふじの子育てサロンフェスタ」が開催されました。いろいろなコーナーが用意されましたが、特に新聞紙プールは大人気で、歓声をあげながら新聞紙をお互いにかけていました。また、初対面同士がおまごとや工作をしたり、お楽しみステージではピアノに合わせてクリスマスの歌を手遊びを交えて皆で歌ったり、アンパンマンの人形のダンスなどで楽しみました。その他、南区保健福祉部の赤ちゃんコーナーでは計測や相談コーナー、食生活改善推進員さんからは、野菜を使ったおやつのお土産もあり笑顔の絶えない楽しい時間となりました。簾舞・定山溪・真駒内など藤野地区以外の方の参加もあり、お子さんも楽しみ、子育て中の保護者にとってもいろいろな情報を交換出来たのではないのでしょうか。今回、藤野地区では初めての企画で、300名余りの参加者全員が楽しめたフェスタでした。

(取材 武田・棚橋)



藤野地区担当の 保健師さん をご紹介します

皆さん、「福まちパワーアップ事業・地域保健活動推進事業」というのをご存知ですか？

ちょっとむずかしいですが「地区診断・個別支援の強化・住民主体の健康づくり支援・保健福祉医療のネットワークづくり」を柱にした事業で、平成26年度から藤野地区がモデル地区として指定され、実施されています。

この事業の特徴のひとつが、従来、区内の広い範囲を担当していた保健師さんを藤野専属に、しかも2名配置するというものです。

今回、このお二人からメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

伊藤美早子^{みさこ}さん

藤野の皆さんに初めてご挨拶をしてから早1年が経とうとしています。私たちの名前を呼んでくださる方が日々増えていくことに、喜びとやりがいを感じています。

この1年、藤野について知れば知るほど魅力あふれる地域であり、藤野の皆様とお会いすればするほど温かさと地域を思う熱意を感じることができました。

ですがたった1年ではまだまだ藤野初心者。今後も皆様と一緒に活動させていただきながら、歴史や文化のある藤野の“通”になれるよう足繁くお邪魔したいなと思っています。その折には、どうぞ私たちに藤野についてお聞かせください。

住民の皆様にとって大切なふるさとである藤野のために、私たち保健師も引き続き尽力してまいります。藤野の保健師として、ひとりでも多くの方々のお役に立てたら幸いです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



左が中川さん、右が伊藤さんです。中川さんは、南区保健福祉部保健福祉課保健支援係（電話582-4746）の所属で、主に藤野4・5・6条、藤野番地を担当します。伊藤さんは、南区保健福祉部健康・子ども課健やか推進係（電話581-5211）の所属で、主に藤野1・2・3条、白川を担当します。ただし、仲良く連携しているので、どちらに連絡されてもかまいませんよとおっしゃっています。

申川^{たえみ}妙美^{たえみ}さん

藤野の皆さんに私たちの顔は覚えていただけでしょうか。そして保健師がどんな仕事をする者なのか知っていただけでしょうか。

4月から地区担当保健師になり、まず藤野を知るために伊藤と二人で様々な統計や既存資料を調べました。さらに地域の役員さんや家庭訪問で出会う方々、関係機関の皆さんからお話を聞くことで、資料だけではわからない藤野の特徴を知りました。保健師はその特徴を活かして藤野の皆さんがより健康に暮らせるために「できること」を皆さんと共に考え、一緒に取り組んでいく仕事です。

福祉のまち推進センターの活動には研修会やブロック別運動教室など企画段階から参加させていただき、一緒に事業を運営できました。一つの取り組みが藤野全体に広がるよう考慮された仕組みに感嘆し、活動している方々の熱意に感動し、私たち自身がどんどん藤野を大好きになっています。

「藤野の保健師」として少しでも多くの皆さんに顔を覚えてもらい、健康について考える時、困った時にお役に立てるよう活動していきますのでよろしくお願いいたします。

アコースティックに酔いしれた「ふれあい交流会」

オータム・コンサート

平成 26 年 10 月 5 日(日) 藤野地区センター

今年度も福まち主催の「藤野地区ふれあい交流会」(担当:福まちふれあい交流班)が開催されました。今回は藤野在住のチェロ・小島盛史さん、クラリネット・大橋真紀さん、道内外で活躍されているピアニスト・辻 千絵さんによる三重奏を楽しみました。

第一部は、クラシックを中心にした曲を、第二部は、ポピュラーの名曲、サウンド・オブ・ミュージック、ラ・クンパルシータ等、懐かしく美しいメロディーが奏でられました。会場には 200 人余りが集まり、アンコールの嵐で幕がおり素晴らしいひと時となりました。(取材 武田・棚橋)



「うんどう教室」で いい汗かきました

主催：健康づくり活動班

今年度も、ブロック別に分かれて開催された「うんどう教室」。

体力測定の結果により転倒の危険度等をチェック。口を動かすカタパラの発声を行い最後に実技指導を受けたラジオ体操を全員で実践し、その効果を確認しながらたっぷりと汗を流しました。
(取材 田中)

ブロック	実施日	参加町内会	参加数
第1	9/10	高台・藤ヶ丘西 野々沢・藤野公園	40名
第2	9/12	高見台・中央・白川 白樺・東藤野	40名
第3	9/30	西藤野・十五島 緑町・本通・団地	45名
第4	9/30	第二・三区・富士見 藤ヶ丘南・第一	50名



▲「ちょうど良い血圧です。」思わず笑顔も。



▲「すごい握力ですね。」係の人もびっくり！



▲実技指導を受けた後の体操は腕が良く伸びてます。



▲「5m歩行」係の人もおいかけるほどの速さでした。

◆◆平成26年度藤野地区福まち研修会◆◆

第1回

『事例～「認知症の高齢者」を地域で支えるためには』

平成26年8月21日(木)、藤野地区センターにおいて、今年度の第1回福まち研修会兼介護予防調整会議が開催されました。テーマについて9つのグループに分かれて、日頃の活動の中で感じた事などを発表しながらお互いの活動に役立つヒントを得ることができました。

また、札幌市南区保健福祉部医事担当部長の医師高橋恭子氏には「要介護の原因となる病気について」の講話をしていただきました。その中で〈藤野の女性は骨・筋肉を鍛えましょう!〉というアドバイスもありました。日頃の心がけが健康寿命を延ばすカギになるそうです。

(取材 武田・棚橋)



第2回

『もしものときのマイ・ライフ・ノート』

平成27年1月28日(水)、藤野地区センターにおいて、第2回福まち研修会が開催されました。

今回は、中高年者が安心した老後を過ごすために、いろいろな地域で活動されている、シニア・サポート札幌代表の、行政書士・板垣 隆氏を講師にお招きし、遺言・相続と成年後見制度についてお話いただきました。

人生をしめくくる準備をきちんとしておけば、安心して老後を過ごせます。

実際の相談事例をもとに、分かりやすい説明でしたので、参加された皆さんも熱心に聞き入っていました。(取材 武田・棚橋)



そもそも「福まち」とは？

少子・高齢化が進むなか、市民と行政が協力して、地域全体で支え合う環境を整え、だれもが安心して暮らせるまちづくりをするために、「福祉のまち推進事業」として地域住民の日常的な支え合い活動、ボランティアによる福祉サービスの推進を事業の基本目標とした活動を展開しています。これを略して「福ま

ち」といっています。

市民の自主的な福祉活動を行う組織として、地区社会福祉協議会(概ね連合町内会)ごとに「地区福祉のまち推進センター」を設置し、各地区で活動を行っています。

また、市内各区の「区福祉のまち推進センター」では、地区福祉のまち推進センターの活動を支援するとともに、区内のボランティア活動の振興を図っています。

今年度、藤野に新しく [重度心身障がい者向け住宅]が誕生しました

●意外と少ない[障がい者向け共同住宅]

介護保険制度をはじめとして、様々な福祉の制度改革や新規事業が展開している現在、関連する福祉施設もその数を増しています。

しかしながら、よく見てみるとその多くが[老人福祉施設]であることに気がつきます。特別養護老人ホームを始めとした、介護や見守り、バリアフリー構造、食事の提供といった、いわゆる[サービス付き住宅]の多くは高齢者への対応が中心となっています。

そんななか、今年度藤野に[障がい者向け住宅]が誕生しました。障がい者の住環境への支援は、個別の住居の改造などが現在は主流ですが、今後、こういった共同住宅が増えていくことに期待したいところです。

ご紹介するのは、平成26年5月にオープンした「ソアレ」で、生活介護(いわゆるデイサービスにあたる)の「ヴィレッジ」なども運営しています。(取材 仙北)



玄関先で焼き肉パーティーをした時です。ご家族にも来ていただいて大人数で焼き肉をしました。

●「ソアレ」施設長、松原のぶみさんのお話

障がいをもった方たちが「将来自立したい!」という夢をもちながら暮らしている共同住宅「ソアレ」です。

日中は体操、レクリエーション、趣味活動を行うデイサービスが併設されているので、楽しみや仲間を見つけることができます。季節のイベントやお誕生会などの行事も開催しています。

ソアレとは、ルーマニア語で太陽の意味です。利用者さん・スタッフともに明るい人が多く、毎日にぎやかに生活しています。



「ソアレ」の外観です。



体を動かすレクがみなさん大好きです。バレーでラリーの記録更新がんばってます。

[重度心身障がい者向け住宅] **ソアレ** 藤野3条4丁目5-10 TEL/FAX 593-3366

●心身障がい者

「身体障がい」または「知的障がい」のある方を「心身障がい者」といいます。「ソアレ」は、重度の方を対象としていますが、病院ではありませんので、常時医療的処置を必要とする方は入居できません。

なお、「障がい」は、本来「障礙」又は「障碍」と書くものでしたが、通常使われない文字のため「害」という漢字が使われてきました。しかしこれは、誤解を与える表記だとして、「障がい」と書くことが増えています。ここではソアレの表記に従いました。

藤野民児協が創立 30 周年 記念祝賀会を盛大に開催

藤野地区民生委員・児童委員協議会が、平成26年に創立30周年を迎えました。6月4日それを記念する祝賀会が催され、現役の委員に加え、前任者員も多数駆けつけてくださり、更に地域や行政の関係各位の皆様にもご参加いただき、盛大な祝賀会となりました。



藤野地区の小学生たちが 「敬老メッセージカード」を作成

敬老の日にあわせて、藤野地区の小学校生の手作りによる「敬老メッセージカード」が、今年も藤野地区の80歳以上の方々に贈られました。

写真は、昨年9月1日に藤の沢小学校で行われた「メッセージカード伝達式」の様です。



本紙第18号が、 広報誌コンクールに連続入賞

昨年度発行された、本紙「きぼう 第18号」が、「福まち活動写真 及び 広報誌コンクール」の広報誌部門で「優秀賞」を、写真部門で「佳作」を獲得しました。

福まち事業を締めくくる 「ブロック別実践者交流会」開催

藤野地区の福祉活動に関わる関係者が情報や意見を交換する「実践者交流会」が4つのブロックに分れて開催されました。

各町内会の福祉推進委員会、福祉部、民生・児童委員などに地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護予防センター、南区保健福祉課の方々などが加わり、今年度の「福まち」活動を終わりました。

★福祉なんでも相談★

地域の方々の様々なお困りごと、悩みごとの相談に応じ、関係機関におつなぎします。電話による相談も受け付けています。

相談日 毎週月曜日(祝日休み) 13時～15時

場所 藤野地区社会福祉協議会事務所
藤野2条8丁目7-18(クロヤナギビル)

電話 591-5082

●編集後記●

12月18日北海道が巨大低気圧に襲われました。気象台は「数年間に一度の猛吹雪のおそれ」とキャッチフレーズを付け、札幌市では小・中・高すべてが臨時休校となりました。

思い返すと、この2年間に本州でおきた土砂崩れ大災害にも人間社会はもろかったです。

人間が自然と対峙しても勝てないことが、明白になりました。個人も、行政も「用意周到」と「想定外」の心準備をいつも持ちたいものです。毎日、何気ない“お隣りさんは元気かな?・・・”がいいのです。
(岩崎)

「きぼう」第19号

発行人 田中 義一

編集者 岩崎、小野、仙北、武田、田中(-)、
棚橋、中野、長谷部、森永

(連絡先 岩崎 591-1098)

組版印刷 編集工房なかの(藤野5-9)